



## 鳥羽 修平 先生

ICOI 認定医、指導医

G・O・I・A 認定医

DACS 認定医

医療法人修洋会鳥羽歯科医院 副院長

前橋赤十字病院口腔外科非常勤勤務

### 『 症例拡大に役立つ外科手技嚢胞摘出同時インプラント埋入 』

今回嚢胞摘出同時インプラント埋入症例において良好な結果が得られたので報告したい。近年抜歯同時インプラント埋入が騒がれている。根尖に陰影があつたりすると抜歯し、搔爬後に術部の治癒を待ち、回復後にインプラント埋入術を施行するのが通法であろう。しかし審美的な顎提を維持しインプラント埋入が可能であろうか？抜歯窩からのアプローチによる搔爬や、通法のパルチ法等で嚢胞摘出を行うと唇側骨の多大な吸収を起し顎提の大きな形体不良を起す。しかし抜歯嚢胞摘出同時インプラント埋入と基本的なGBRの概念を併用すれば、顎提の変化は殆ど起こさずに審美性を保つことができる。

今回術式のポイントを詳しく先生方にお話したい。限られた時間ではあるが、明日から直ぐにでも施行出来るように説明していきたいと思う。我々インプラントジストの人口も近年増加傾向にある中、他医院との差別化が必要とされている。今回の報告が多くのアローインプラントユーザーの先生方の、インプラント症例増加につながれば幸いである。当医院では嚢胞を含め良性腫瘍等にも本法を施行し、現在約50症例すべてにおいて良好な経過をたどっている。